

# JFA 第20回全日本ビーチサッカーワールドカップ

## 審判員研修会参加報告書

・研修会名称:

2025年度ビーチサッカーレフェリー研修会

・研修会日程:

事前研修会: 2025年8月28日(木) 20:00 ~ 22:00 ※

研修会: 2025年9月17日(水) ~ 2025年9月21日(日)

事後研修会: 2025年10月1日(水) 20:00 ~ 21:30 ※

※ Zoomを利用したオンライン集合型研修会

・競技会名称:

JFA 第20回全日本ビーチサッカーワールドカップ

大会公式HP: [https://www.jfa.jp/match/japan\\_beach\\_2025](https://www.jfa.jp/match/japan_beach_2025)

・競技会期間:

2025年9月19日(金) ~ 2025年9月21日(日)

第1回戦: 9月19日(金)

準々決勝、準決勝: 9月20日(土)

決勝戦、第3位決定戦: 9月21日(日)

・競技会会場:

兵庫県明石市大蔵海岸(〒673-0879 兵庫県明石市大蔵海岸通1丁目)



■報告書概要：

1. 研修会について(概要)
2. 学び・気づき(収穫と課題)
3. 今後の展望(自己および中国地域に向けて)

1. 研修会について(概要)

＜要約＞

一般社団法人中国サッカー協会の推薦により、2025年9月17日から21日に兵庫県明石市内にて行われた2025年度ビーチサッカー審判員研修会に研修生として参加した。本研修会は、主に9月19日から21日にかけて同市大蔵海岸にて開催されたJFA 第20回全日本ビーチサッカー大会を用いて行われた。大会開催前には、8月28日にZoomを利用しオンライン集合型の事前研修会が行われ、大会閉幕後は、10月1日に同様の形式で事後研修会が行われた。

## <研修会>

### ▪研修会参加者:

- ・研修生9名(各地域サッカー協会より1名ずつ)、および大会開催地域協会(関西サッカー協会)より審判員4名
- ・インストラクター4名(櫻田雅裕(チーフインストラクター)、金子一博、森文敬、篠原達哉)
- ・JFA審判部3名(斎藤英子、多田浩太、高木進ノ介)

### ▪研修会日程:

事前研修会:2025年8月28日(木)20:00 ~ 22:00 ※

研修会: 2025年9月17日(水)~ 2025年9月21日(日)

事後研修会:2025年10月1日(水)20:00 ~ 21:30 ※

※ Zoomを利用したオンライン集合型研修会

### ▪競技会について:

本競技会の各試合は、各地域予選を勝ち抜いた9チームおよびその他の条件を満たした7チーム(計16チーム)によるオールノックアウト形式によって行われた。各試合時間は、36分間(3ピリオド各12分間)。試合時間内で勝敗が決しない場合、3分間の延長戦を行い、それでも決しない場合はPK戦(ペナルティーシュートアウト)により勝敗を決定。

## 2. 学び・気づき(収穫と課題)

### ▪事前研修会

#### 日時:

2025年8月28日(木)20:00 ~ 22:00

#### 形式:

Zoomを利用したオンライン集合型研修会

□ 研修内容:

1. ビーチサッカー競技規則2024-25確認
2. 第3審判、第4審判の動き
3. シザースキック
4. 大会要項確

□ 受講して(感想):

ビーチサッカーは、サッカーファミリー競技の1つとして、ビーチサッカー特有の性質を最大限に発揮させるため、サッカーとフットサル競技それぞれの特徴(プレー自体および競技規則)を併せ持った競技である。ピッチが砂場であるため、サッカーやフットサルにはない魅力を持っている。審判法は、フットサルのそれに近いが、タイムキーパーを除く副審でピッチ場の審判員である第3審判に加え、第4審判もピッチ場の審判員として任務を遂行することになる。ピッチ場の審判員の配置は、タイムキーパーテーブル側のタッチライン沿いに、主審、第3審判、および第4審判が位置し、反対側のタッチライン沿いに第2審判が配置される。このことから、4人の審判員が能動的にピッチのタッチライン沿いを移動することになる。ビーチサッカーは、砂場で行われるため、タッチラインとゴールラインを除き、ピッチ場にマーキングがされない。そのため、ボールや競技者の位置、またファウルが行われた場所を特定するために、ピッチの外に配置された10本の旗(フラッグ)を使い、4人の審判員がそれぞれの状況に応じて適切な旗の前に位置することでそれらの場所を特定する。つまり、4人の審判員はプレーやゲーム展開に応じて、常に各々がどの位置にポジションを取らないといけないのかを考えながらポジショニングする。今年5月にセーシェルで開催されたFIFAビーチサッカーワールドカップ2025でも、第4審判が本格的に導入された。そのため、JFAは本大会において、第4審判を用いたビーチサッカー審判法の指導を行なった。しかし、各地域におけるビーチサッカーの競技会では、第4審判員を積極的に活用して試合を運営しているところは少なく、今後各地域においてもこの審判法が浸透していくと考えられる。ビーチサッカー競技規則を正しく理解し、ビーチサッカー特有のシグナルや再開方法を実践することに加え、4人の審判員が能動的に連動する(ポジショニング)ためには、各状況に応じて常にどの位置にいないといけないのか・移動しないといけないのかを考える必要があるため、「脳の体力」を消費しそうだなと感じた。体で覚えるまでは、常に考えて動く「癖づけ」が大切だと感じた。

▪研修会

□ 日時:

2025年9月17日(水)～ 2025年9月21日(日)

□ 形式:

実際の試合で使われるピッチ(ビーチ)を利用したプラクティカルトレーニング、および宿泊先ホテル会議室にて行われた座学研修会。また、実際の試合の割り当てをいただき、インストラクターとの試合後の振り返りによるレフェリング指導。

□ 研修内容:

・プラクティカルトレーニング

試合開催前日の午前と午後、ピッチを利用して行われた。午前中は主に、ビーチの歩き方や走り方、股関節の可動域を広げる動き方、筋体温を上げるための動的ストレッチなどを含めたウォーミングアップに取り組んだ。午前中、雷雨に見舞われ、日程を変更して座学研修を午前と午後のプラクティカルトレーニングの合間に実行になった。午後のプラクティカルトレーニングでは、ビーチサッカー審判員法実践した。キックオフやフリーキック時等のポジションの確認、4人の審判員がどのタイミングで動き出し、どのフラッグの前にポジションを取るのかなど、様々な場面(プレーの状況)に応じてポジショニング技術の習得に努めた。

・座学研修

ビーチサッカーの醍醐味であるシザースキックの見極めについて学んだ。ボールが、シザースキックを行おうとしている競技者の「コントロール下」にあるとはどのような状況で、そのためにはどのような条件を満たしている必要があるのか、またその時に守備側競技者がシザースキックを行おうとしている競技者を妨害したりその競技者と接触があった際は、どちらがファウルを行なったとみなされるかなど、様々な要素を切り出して映像研修が行われた。

・試合を用いたレフェリング指導と振り返り

割当:

大会1日目 第1回戦 東京ヴェルディBS vs アートホームガーデン(第4審判) 24 - 0

第1回戦 アヴァンチ大阪 vs 青森スタリオンズ(第2審判) 5 - 2

大会2日目 準々決勝 東京レキオスBS vs レーヴェ横浜(第3審判) 3 - 11

大会3日目 決勝戦および第3位決定戦

JFA派遣審判員による割当のため、研修生の割り当てはなし



#### ■事後研修会

##### □ 日時:

2025年10月1日(水)20:00 ~ 21:30

##### □ 形式:

Zoomを利用したオンライン集合型研修会

##### □ 研修内容:

1. ポジショニング
2. チームワーク
3. シザースキック
4. 次に向けて

□ 受講して(感想) :

研修生が割り当てをいただいた各試合におけるビデオ映像(クリップ映像)を用いて、プレーの開始や再開時のポジショニング、事象が起こる前や起きた後の4人の審判員のチームワーク、そしてシザースキック時の反則かどうかの確認を行なった。ポジショニングについては、実地研修会を通して試合数を重ねる毎に研修生全体の意識と実践力が向上したと、櫻田チーフインストラクターから評価をいただいた。しかし、フラッグの目の前に立つこととフラッグ付近に位置取ることは全く別事であり、視線を下げることなくフラッグの前に立つことが課題として挙げられた。また、ピッチの中はどのような状態になっているから、4人の審判員がどこにポジションを取らなければならないのか、また自分のポジションのことだけを考えるのではなく、他の3人の審判員がどの位置に移動しようとしているのかをピッチ全体を見渡すことで感じ取らなければならぬとの指摘があった。それから、第3審判と第4審判としてピッチに立つときは、自らが能動的に動くことによって「主審と第2審判を移動させる」といった考え方のもと次のポジションを探すことの重要性が説かれた。ビーチサッカーにおいては、4人の審判員が適切なタイミングで適切なポジションに移動することが、その試合を担当するタイムキーパーを含めた審判団全体のチームワークに直結するということもご教授いただいた。ビーチサッカーの大会は全国的に見ても多くはないため、巡回講習会やそれぞれの地域で開催されるビーチサッカーリーグなど、自ら積極的に足を運んで審判員の割り当てをもらいにいくことで、ビーチサッカーのレフェリング技術(特にポジショニング)の向上につながるとのお言葉をいただいた。研修内容以外にも取り組むべき課題などはあるが、全国大会の試合で審判員の割り当てをいただくことの意味と意義を再認識し、競技者、チーム、運営役員や観客からこの審判員に任せたいと今以上に思われる(思わせる)レフェリーを目指していきたい。



### 3. 今後の展望(自己および中国地域に向けて)

<ビーチサッカーレフェリーとして更に成長するために>

JFA公式Xに掲載された参加者コメントを参考されたい。

JFA公式X:

X[https://x.com/JFA/status/1975458252935815675?t=\\_NCVW\\_ZYu76LCTR2-xgZTg&s=06](https://x.com/JFA/status/1975458252935815675?t=_NCVW_ZYu76LCTR2-xgZTg&s=06)

<ビーチサッカー審判員研修会で学んだことを中国地域に還元するために>

この度、中国サッカー協会フットサル・ビーチ部会の推薦をいただき、初の全国大会の場に派遣いただいた。ビーチサッカーは、世界的にも日本国内でもまだまだマイナースポーツといった印象がある。サッカーファミリー競技の一つとして、サッカー や フットサル だけではなく、ビーチサッカーに審判員として携わらせていただいている中で、ビーチサッカーの競技そのもの、およびビーチサッカーレフェリーの魅力を発信していきたい。2025年度ビーチサッカー審判員研修会で学んだ多くのことや様々

な気づき、そして自分自身の課題と向き合い、中国地域におけるビーチサッカーレフェリーの一員として、ビーチサッカーの競技レベルの向上やビーチサッカーの発展に寄与し続けていきたい。



← Post



日本サッカー協会

@JFA

...

9/19(金)～21日(日)に開催された『JFA 第20回全日本ビーチサッカー大会』において、ビーチサッカー審判員研修会を開催しました!

各地域から審判員を派遣いただき、事前にオンラインによる座学研修を、また大会前日にはフィジカルトレーニング・プラクティカルトレーニングを行い大会に臨みました。

#### 参加者コメント

坂田俊空（フットサル2級審判員・サッカー3級審判員/愛知県）

「東海より地域派遣審判員として参加した坂田俊空と申します。

まず初めに大会に関わってくださった関係者やインストラクターの方々に感謝を申し上げます。

今大会から第4の審判員が全試合に導入され、新たな学びと難しさを感じる大会でした。そのため、事前研修やプラクティカルトレーニングの学びや、大会期間中の振り返りなど、試合と選手のためにできる行動を心がけました。

ビーチサッカーの日本最高峰の大会に審判員として関わることは、難しさとともに、やりがいや楽しさも感じられ、今後に繋がる貴重な経験となりました。地域にも還元し、日本にビーチサッカーがさらに普及するよう、審判員として出来ることを続けていきたいと思います」

田中智大（フットサル2級・サッカー3級審判員/鳥取県）

「この度、JFA主催大会で初の全国の(砂)場を経験させていただきました。

各地域を代表する9名の同士と、強化、1級および国際審判員にもまれ、刺激と気づきと学びの多い4日間でした。

また、JFAが20年間紡いできた大会の一翼を担うことができ、非常に感慨深かったです。

普段所属地域でご指導いただいていることは全国で通じると実感したとともに、今回全国で培った知見と経験を所属地域および県に還元することが、日本のビーチサッカー競技レベル全体の更なる向上に貢献できるのだと感じました。

研修会を通して、更に成長するために必要だと感じたことを強みに変え、また全国の砂場に帰ってきたいと思います。

感謝、感激、リスペクト！」

#jfa #審判

#ビーチサッカー #全日本ビーチサッカー大会

Translate post



4:08 PM · Oct 7, 2025 · 18.6K Views



9



41



この度、私を推薦していただいた中国サッカー協会フットサル・ビーチサッカーハンズ会長の粟屋昌俊氏、同部会長柿本大吾氏、および中国サッカー協会審判委員長前田拓哉氏をはじめ、応援してくださったレフェリー仲間みなに感謝と敬意を示し、2025年度ビーチサッカーハンズ員研修会(JFA 第20回全日本ビーチサッカー大会)の参加報告書といたします。

2025年10月末日

中国サッカー協会(鳥取県)

フットサル2級、サッカー3級、ビーチサッカーハンズ員

田中智大